2025　年度　認定こども園教育・保育要領に基づく 施設関係者評価　【まとめシート】

＜自己評価＞ 及び ＜公開保育＞

法人・園名	園　長　名	作成日
学校法人吾田学園・幼保連携型認定こども園 あがた幼稚園	伊豆元　精一	令和7年6月20日

教育・保育要領自己評価コーディネーター　〔認証番号〕　氏名　伊豆元淳子　JH2112-013

評 価 の 記 録

	評価者A	評価者B	評価者C
良い点	年齢や季節に応じて子どもの興味や好奇心をそそる様々な遊びのコーナーがありました。子どもが自ら選択・決定し、工夫をして取り組むことにより、主体性をもって伸びやかに過ごせるような環境作りに努めていらしゃると感じました。自然いっぱいの園庭には実のなる木がたくさん植えてあり、季節の旬をテーマにした活動が行われていました。季節を感じられるような食育活動にも取組み、菜園で育てたり、収穫し、調理することを通して喜びを感じなB8:F10がら食への興味・関心を深められていると感じました。このような子どもが主体的に関わりたいと思う豊かな環境づくりの一つとして豊富な「本」の環境がありました。室内外のいたるところに本が置いてあり、子どもがいつでも興味のある本を手にすることができる環境の素晴らしさを感じました。	子どもの育ちを支えるための環境づくりを目指す上で、関わる「人」の存在を大切にされていると感じます。子どもでも大人でもあがた幼稚園で生活する人それぞれが、自分の好きなことを選択し、自分の力を最大限に発揮することを第一優先にすることで個性を見出してほしいとの考えに感動しました。個性豊かな力を発揮する大人と関わると、子どもたちはそのような人になりたいという憧れを持ち、自分もやってみたいという気持ちが生み出され、同じように活動する体験を望むようになり、ひいてはオリジナリティのある遊びへと発展していくと感じました。豊かな遊びが次々と展開されている訳がなんとなく分かりました。	子どもたちが自ら選択した遊びに集中している姿がとても印象的でした。遊びのエリアがうまく構成されており、遊びが途切れることなく続けられる環境が参考になりました。また先生方の子どもたちを邪魔しない距離感が、子どもたちの遊びを更に深めている大きな要因である事にも気づかされました。様々なテーマごとに、楽しく面白い仕掛けがなされたり、各部屋の環境構成にも細かい心使いが感じられ、改めて環境構成がいかに大切かを思い知らされました。また、先生方から感じられる温かい雰囲気から、安心感が得られる思いがします。5領域のバランスが良く、様々な活動が行われていました。認定こども園として地域との連携が良くとれていると感じます。
改善点	絵本を介して保育者と家庭がつながっていくような取組のツール開発を研究中であり、今後この園の事例も参考に、研究を進めていきたいと考えています。協力をお願いしたいです。	児童発達支援の分野も専門であり、地域における支え合いの大切さを感じています。インクルーシブな社会の実現に近づけるような支援を共に考えていきたいです。	
更に期待する点	訪問する度に進化していく取組に感服し、さらには地域社会が新たな変化を遂げていることを感じた1日でした。産前産後ケアの対応では、きっとここで産み育てたいと願う方がこの地域を愛する人となり、発展していくことと思います。子どもの育ちのみならず、まさに地域づくりであり、共育ちの構造が実現されていく過程であると感じました。	一人一人のブースが確保され、飲み物やおやつが準備されているスタッフの休憩室には驚きました。職員をとても大事にされていると感じます。働きやすい職場作り、やりがいを持って仕事ができる環境づくりに努めておられると感じました。貴園の明確な教育コンセプトに基づく取組や、エレン・ケイの思想を深く学び、実践されている姿勢に大変感銘を受けました。子どもの自主性を尊重する環境づくりが、園児の主体的な成長を支えていることを実感し、更なる期待をもってまた訪問したいです。	子どもも大人も自分らしさを大切にできる場であり、その姿が子どもたちの憧れや主体的な遊びへとつながっています。遊びの構成や保育者の距離感、丁寧な環境づくりが印象的であり、地域との連携も良好だと感じました。今後、絵本を通じた家庭と園のつながりの研究や、児童発達支援を含む地域支援の取組が継続してなされることを期待します
評価を受けて	今年度も多くの方々に評価をしていただきました。その中でも長年にわたり園を訪れ評価ご指導をいただいている大学の先生とは、地域における認定こども園の役割についてしっかりとお話ができました。時代と共に社会そして、子育て世代のニーズは変化していき、それにこども園がどのように応えていくかという大きなテーマについてお話ができ、考える機会をいただきました。国の指針に沿った保育を行うには、やはり幼保連携型認定こども園教育保育要領をしっかりと読み理解し、職員間で共通理解を図ることが大事だと感じました。そして、保育とは人が生きていくこととして捉え、幼児が家族が、そして地域社会に暮らす人々が幸福感を感じられるような環境を園としてつくっていこうと改めて思いました。地域に生きる全ての人々のウェルビーングを目指していくことが保育者としての務めであると、様々な方々の意見を伺い感じました。		

※施設関係者評価　(1)〔**評価者A**〕 他の乳幼児施設職員または地域の幼児教育・保育関係者

公開保育評価者　（次のいずれか）　① 共に研修に取り組む他園職員　② 自治体こども関連職員等　③ 地域の幼児教育・保育に長年携わっている方 等

(2)〔**評価者B**〕 小学校等の他校種教員等による評価

（次のいずれか）　① 小学校との接続を図っている小学校職員　② 養成校職員等

(3)〔**評価者C**〕 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者

（次のいずれか）　① 地域の幼児教育アドバイザー　② 教育・保育要領自己評価コーディネーター（同市町村以外の登録認定者を推奨）

③ 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者等